

たてはく

令和6年度 後期特別企画展

「説話にみる異界と立山」

会期：令和6年10月5日(土)～11月4日(月・振替休日)

古来、立山は「地獄のある山」「異界」とされ、容易に立ち入ることができませんでした。それが江戸時代には、新しい仏教観や社会観を背景に、「立山」観・「異界」観も大きく変化しました。また折からの出版ブームにより、立山も本を作るための題材となったことなどもあって、立山に興味関心を持った多くの人々がその頂を目指しました。

本企画展では、この立山の「異界」がどのように変容していったかを、説話文学を通して紹介します。また今回は「片袖幽霊譚」にも着目します。これは謡曲『善知鳥』に代表されるお話です。諸国一見の僧が立山を訪れ、そこで狐師の幽霊に会いました。狐師は、自分を供養するようにと、陸奥の妻子への伝言を僧に頼み、証拠に着物の片袖を託します。陸奥へ赴いた僧は、妻子に片袖を見せて事情を話し、妻子は早速供養を行うのですが、残念ながら殺生の罪を重ねた狐師は救われませんでした。この悲しい説話をもととして、江戸時代にどんな説話が創作されたかにご注目ください。

また、今回は「片袖幽霊譚」に関連して、大阪市平野区より「亡女の片袖」（融通念佛宗総本山大念佛寺蔵）が県内初公開されます。こちらの方もぜひご覧ください。

(奥澤真一郎)

【展示関連イベント】※申込不要、企画展観覧料が必要

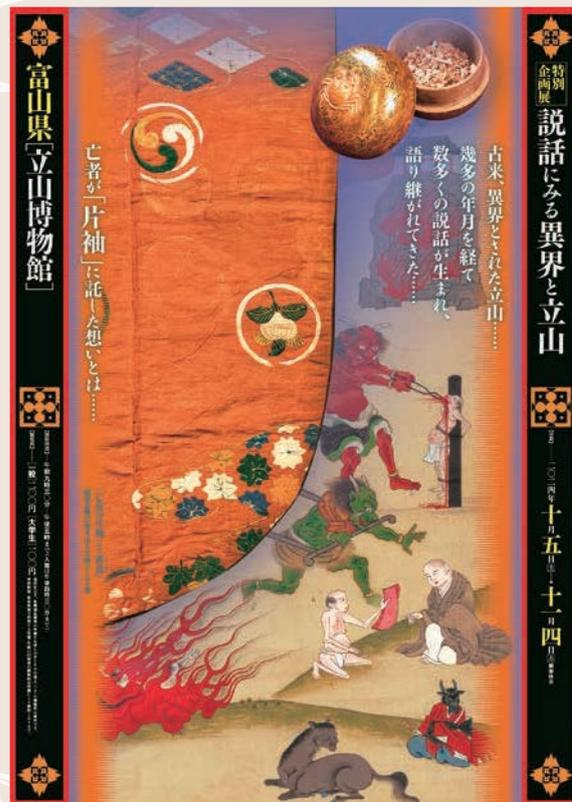
●担当学芸員展示解説会●

10月5日(土)、10月19日(土)、11月2日(土)

上記いずれも14:00～15:00

10月12日(土)、11月3日(日・祝)、11月4日(月・振休)

上記いずれも14:45～15:45



開催場所 立山博物館展示館1階 企画展示室
開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
観覧料 一般200円、大学生100円 ※高校生以下は無料
休館日 月曜日(祝日及び11/4は開館)、10/15(火)

※ 展示替えのため、10月4日(金)は全館臨時休館となります。

目次

令和6年度後期特別企画展 「説話にみる異界と立山」	1
令和6年度日本三霊山連携事業・前期特別企画展 「立山・白山・富士山を巡る一立山衆徒と三禅定」を開催して	2
令和6年度文化講演会(日本三霊山連携事業) 「東海地域の白山信仰・富士山信仰からみた三禅定」を開催	2
ボランティア活動報告 各種イベントでボランティア活躍中!	2
学芸課発 立博雑学 第14回 立山道の刀尾天神社	3
今年の夏も「たてはく探検隊」で学ぶ!	3
しばし暑さを忘れた?“地獄博物館” ミュージアムdeナイト in 芦峯寺(8月10～12日)	3
秋の催し〇後期特別企画展「説話にみる異界と立山」連携企画 桂 米福落語会 怪談「江島屋騒動」を聴く会	4
〇秋の教算坊で「もみじを愛でる会」	4
博学連携「博物館実習」を実施しました!	4
編集後記	4





令和6年度 日本三霊山連携事業・前期特別企画展

「立山・白山・富士山を巡る-立山衆徒と三禅定-」を開催して

日本三霊山連携事業の一環として開催した、前期特別企画展「立山・白山・富士山を巡る」の会期も終わりに近づいてきました(会期は9月23日まで)。

本展示では、江戸時代、東海地方の人々が盛んに行っており、旅の日記(道中記)や三禅定の習俗を示す石碑・供養塔(三禅定碑)が愛知県、特に知多半島の知多市や常滑市、大府市、東浦町、武豊町に多く遺っていることから、これらの資料を手掛かりに、三山を巡る旅「三禅定」について紹介しました。

さらに、白山や富士山の魅力を伝えるために、県内初出展となる石川県白山市の林西寺様所蔵の「林西寺本白山曼荼羅」と富士山本宮浅間大社様所蔵の「富士参詣曼荼羅」、愛知県常滑市の松栄寺様所蔵(富士山かぐや姫ミュージアム寄託)の「富士参詣曼荼羅」を展示させていただきました。石川県能美市の能美ふるさとミュージアム様所蔵の「絹本着色白山曼荼羅図」と、展示は複製でしたが富士山本宮浅間大社様所蔵の国指定重要文化財の「絹本着色

富士曼荼羅図」も併せて、白山と富士山のそれぞれの特徴を紹介したことにより、「白山や富士山へも登ってみたいくなった」や「三山を一度に巡る風習があったことを初めて知った」、「もっと愛知県や岐阜県の人にも知ってもらいたい」というお声をいただきました。さらに本展示では、南砺市上梨区様所蔵の「白山本迹曼荼羅図」が令和元年5月に行われた御開帳以来のお披露目となり、博物館での展示が初めてだったこともあり、多くの方々にご覧いただけ、大変喜ばれています。

他にも、現地に赴いてもなかなか拝見できない資料も多く展示させていただいていますので、会期が残り少なくなってきましたが、ぜひこの機会にお越しいただくと嬉しいです。

(細木ひとみ)



日本三霊山 連携事業

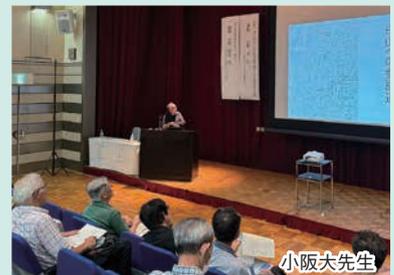
令和6年度文化講演会

「東海地域の 白山信仰・富士山信仰からみた三禅定」を開催

今年の文化講演会は、日本三霊山連携事業の一環でもあり、前期特別企画展の関連イベントとして、8月17日(土)に富山駅近くの高志会館で開催しました。しかも、例年1名の先生に講師をお願いしているところを、今回は白山から小阪大先生(白山市観光文化スポーツ部文化課長補佐)を、富士山から大高康正先生(静岡県富士山世界遺産センター学芸課教授)をお招きし、前期特別企画展で展示している南砺市上梨の白山宮の「白山本迹曼荼羅図」と愛知県常滑市の松栄寺の「富士参詣曼荼羅」を中心に三禅定と絡めてお話ししてくださいました。

なかなか県内で白山や富士山の曼荼羅のお話を伺う機会がないこともあってか、たくさんの皆様にお越しいただき、帰り際に「本当に勉強になった」「もう一度、企画展を見に行きます」などと声をかけてくださった方もおられました。今年も有意義な講演会となったのではないかと思います(聴講者100名)。

(細木ひとみ)



小阪大先生



大高康正先生

ボランティア 活動報告

各種イベントで ボランティア活躍中!

- ボランティア有志が、7月27日(土)開催の「たてはく探検隊」や、8月10日(土)から12日(月・振休)に開催された「ミュージアムdeナイトin 芦峯寺」、8月17日(土)開催の「文化講演会」において、準備や当日運営など大活躍しました。
- 第2回教養講座「まんだら遊苑の解説研修」、第3回教養講座「立山・白山・富士山を巡る-立山衆徒と三禅定-」を実施しました。今後も楽しく立山の自然や歴史を学べる講座を開催していきます。
- ボランティアは随時募集しておりますので、興味のある方はお気軽にお問合せ下さい。

(河野史明)



第3回教養講座の様子





学芸課発

立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博についての蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

第14回 立山道の刀尾天神社

江戸時代には、一夏に6,000人ももの禅定登拝者が全国各地から立山を訪れたと言われます。立山へ向かう登拝者が通った道は「立山道」と呼ばれ、途中には寄進された石仏や道標などが建てられていました。

立山道はいくつもあり、富山城下を出発する道の他、飛騨街道から笹津、舟倉、大泉、太田本郷、上滝から岩峯寺へ向かう道筋、北陸街道を滑川で分岐して上市を経て岩峯寺へ向かうルートも知られています。

立山禅定では、立山道沿いにある立山信仰ゆかりの寺社を参拝して立山へ向かいました。その中で太田本郷村（現太田南町）にある刀尾神社には多くの登拝者が参拝したと言われます。祭神は天手力男命で、本地仏は不動明王。現在刀尾寺が隣接するのは神仏習合の名残です。

さて、同じ山室地区の中市村は、江戸時代に五百石街道と上滝街道が交差した交通の要衝でした。立山道はその辺りで中川原、横内、大場を通る道と公文名、太田本郷を通る道に分かれ、そこにあった刀尾天神社にも禅定者が多く参拝し、周辺には土産物屋も並び賑わっていたと言われます。

この中市村の刀尾天神社は、現在はひっそりと住宅街の中にありますが、江戸時代には立山道沿い（現在のNTT南局付近）にありました。

近所に住む筆者は日頃境内を近道にしており、神社（現在の建物は昭和27年に再建）屋根の軒瓦に梅鉢紋が入っているのを見上げて「はて、なぜ菅原道真を祀った天満宮でないのに梅鉢の紋？」と不思議に思っていたのですが、最近謎解きの手掛かりを見つけました。

境内には江戸時代に寄進された古い灯籠が残り、その碑文には「天保三年 願主大岩山日石寺中興住持如龍」とあります。調べてみると、寄進した如龍は中市村の生まれで、日石寺9世性栄のもとで修行し、太田本郷の刀尾寺住職、後に日石寺の11世、またこの刀尾天神社の別当を務めた高僧でした。この繋がりから、中市村の刀尾天神社は加賀藩の祈願所だった日石寺の末社の一つだった可能性を指摘する研究もあります。

刀尾天神社の社章は雄山神社と同じく「違い鷹の羽」ですが、日石寺の紋は「梅鉢」です。中市村の刀尾天神社は雄山神社とも、また如龍を介して日石寺や太田本郷の刀尾神社・刀尾寺とも関係が深かったことが考えられます。



富山市中市にある刀尾天神社



軒瓦に見える梅鉢紋

今後さらに研究の余地はありますが、立山禅定と立山道沿にあったゆかりの寺社との関係を考える時に、興味深い話ではないかと思われます。

(吉野俊哉)

参考文献：山室郷土史編集委員会編『山室郷土史』（平成5）

今年の夏も「たてはく探検隊」で学ぶ!

夏恒例、子供向けイベント「たてはく探検隊」を7月27日(土)に参加者24名(子供12名、保護者12名)で実施しました。

教算坊、展示館、閻魔堂、布橋と4つの施設を巡り、最後に遙望館で立山曼荼羅のかるた大会を行いました。朝から気温の高い日でしたが、水分補給をこまめに行い落ち着いた雰囲気の中で活動ができました。参加者からは、「子供がわかりやすい内容でよかった」や「閻魔大王と写真撮影できてよかった」のような声をいただき、立山博物館を満喫していただきました。

(瀧川織恵)



しばし暑さを忘れた?“地獄博物館”ミュージアムdeナイトin芦峯寺

今年は恒例スタンプラリーに加えクイズ大会は回数を増やし、絵解きもロングで三夜実施しました(8/10~12開催)。連日家族連れを中心にご来館いただき、子供たちの歓声が響きました。

炎や血の池のイメージで“地獄は赤”ですが、今年は展示館3階を青の清浄な雰囲気にし、四季それぞれの立山の風景を環境映像にしました。

「今年はどうな趣向かな?」と楽しみにしていただけのよう、来年も工夫を加えていきたいと思います。(展示館441名、教算坊676名、山岳集古未来館457名) (吉野俊哉)



秋の催し案内

後期特別企画展「説話にみる異界と立山」連携企画

桂 米福落語会 怪談「江島屋騒動」を聴く会



富山出身の落語家・桂米福師匠が立山博物館に登場です。

今回は後期特別企画展に登場する説話の一つを元にした噺、三遊亭圓朝作「鏡ヶ池操松影」より怪談「江島屋騒動」の一席をお届けします。



桂 米福 師匠

< あらすじ >

江島屋という古着屋で大金をはたき新品同様の婚礼衣装を揃えたお里。お里が婚礼の際その衣装を着て接待をしていたところ、腰から下が破れ落ちてしまった。実はその婚礼衣装は、布を糊付けしてとめてあっただけの不良品(イカモノ)だったのだ。それが原因で婚約破棄になってしまう。お里は婚礼衣装の片袖をちぎって木に結び身投げするのであった。

さてそのあと江島屋はどうなったかと言うと…

日本の話芸「落語」をたっぷりとお楽しみください。

開催日：10月12日(土)

時間：12時30分開場 13時開演(約90分)

終演後、立山博物館企画展示室にて担当学芸員による解説会を開催します。

場所：立山町立芦峯公民館 1F大ホール

定員：当日先着50名

※満席になり次第、入場を締め切ります。

入場方法：入場時に後期特別企画展観覧券(半券でも可)を提示

※聴講無料、高校生以下は券不要

秋の教算坊で「もみじを愛でる会」

秋の恒例になりました、もみじを愛でる会を旧宿坊教算坊にて開催します。

普段はなかなか見る機会のない「立山曼荼羅」の絵解き解説を、申込不要で参加ができます。また、お昼時には、立山博物館周辺で確認された動物たちの映像上映もご紹介します。

ノスタルジックな雰囲気漂う空間での秋のひとつときをどうぞお楽しみください。



開催日：11月3日(日・祝)、4日(月・振休)

絵解き時間：各日とも11時~11時40分と14時~14時40分の2回

場所：教算坊 ※申込不要、参加無料

博学連携

「博物館実習」を実施しました!

今年は8月20日(火)~23日(金)と27日(火)~30日(金)の計8日間実施し、2名の大学生が受講しました。

● 籠橋 蒔乃さん(富山大学人文学部)

実習を通して、博物館が地域の方々、資料を提供して下さる方々、来館者など、様々な人たちとの信頼関係の上に成り立っていることを実感しました。



室堂平での石造物調査、立山曼荼羅の絵解き解説など、立山博物館ならではの实習もさせていただき、その都度とても多くのことを学び、楽しんだ実習期間でした。ここでの経験を今後、様々なことに活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。

● 間片 誉玲さん(東海大学文化社会学部)

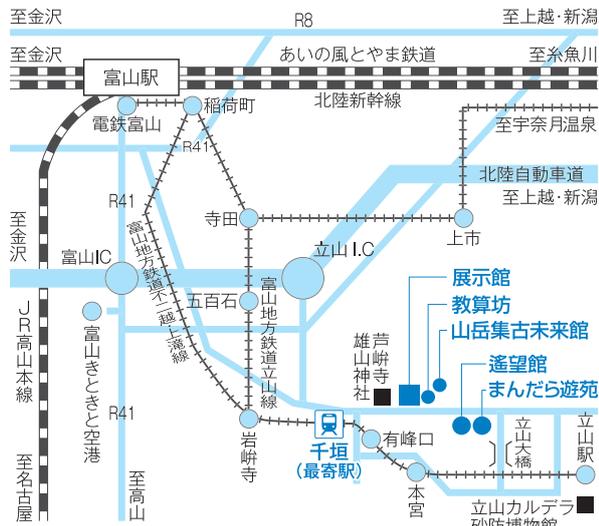
今まで展示を見る側として立山博物館に来ていましたが、今回実習生として博物館を支える側の仕事を体験させていただきました。大学で学んできた事を実際の業務を通して身につける事ができただけでなく、博物館を支えるために働いておられる方々と普段目に見えない業務の多さ、大切さを学ぶ事が出来ました。

立山博物館ならではのフィールドワークや立山曼荼羅の絵解き解説研究など、現場でしかできない貴重な経験もさせていただき、本当に充実した2週間でした。ありがとうございました。

編集後記

夏の怒涛のイベント開催ラッシュを終え、ちょっと一息ついて…。次は、秋の後期特別企画展ですね!秋の教算坊は1年で一番ステキですので、庭園散策とあわせて企画展観覧へぜひお越しください(H)。

案内図



● 最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩(約2km)
※日曜を除き町営バス運行
「雄山神社前」下車すぐ

● 自家用車で
JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のHPはこちらから



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144

でも情報発信中 立山博物館